

内閣府
特命担当大臣表彰
優良賞

厚生労働省推薦

中橋真紀人

(東京都足立区)

【概要】

➤ 映像プロデューサーとして活躍。福祉や人権をテーマとする記録映画や劇映画の自主制作を行っており、その上映・普及に取り組んでいる。

一般公開を行う映像作品においては、日本語字幕や副音声というバリアフリー版を常に用意。その上映普及を推奨し、どの上映館においても、聴覚障害者や視覚障害者が鑑賞に参加できる条件を確保している。

【功績・功労】

➤ 障害者に関する映画の自主制作・上映を長年継続

国民の間で理解と共感を得るためには「障害とは何か」という事を具体的認識してもらうことが不可欠であると考え、障害の持つ特性、その日常生活における困難さ、社会的条件に伴う障壁を一般の人々にわかりやすく伝えることを重視した映画を制作。

上映についても、全国各地に点在する様々な市民組織の草の根の取組みの力を借りながら、多彩な方法で上映活動を推進。

➤ 初の自主製作映画「どんぐりの家」の製作

ろう重複障害児を持つ子供を育てる家族の悩みと喜びを日常生活の中で描いた原作に接して感動し、映画を製作したいと思い立ち、95年に一人で動き出す。予算1億円。

幅広い市民運動で資金を集め制作。第1回文化庁メディア芸術祭アニメーション部門優秀賞獲得。



「どんぐりの家」日本語字幕

自主上映活動は、ユニークな草の根方式により支持を
を広げ、小中学校での学校団体鑑賞を含め4年間で
全国3,500回・120万人を超える驚異的な成果を上げ、
障害者福祉の分野で大きな反響を起こした。

また、アジア太平洋諸国の関係者との提携により、
韓国・タイ・マレーシアなど各国で字幕版による上映
を行い、その後も英語字幕版、スペイン語字幕版、
モンゴル語字幕版が製作され、全世界で上映される
など高評価を得ている。



モンゴル語によるポスター

➤ つながり映画祭の開催

障害を扱った映画だけの映画祭として自身でミニシ
アターと交渉し平成21年から10年間連続で上映会
を開催。合計百数十本もの障害者問題の映画を上映
したことで、作品の紹介に大きく貢献した。



つながり映画祭パンフレット

➤ 次世代育成への尽力

障害に関する映画は多く制作されているがその事実は余り知られていない。このため、自らプロ
グで紹介したり、映画配給会社に紹介をしたり障害者団体に紹介したりするなどのサポート活動を行
っている。障害者に対する理解促進に長年尽力しており、その貢献度は大きい。